特定非営利活動法人 バングラデシュと手をつなぐ会

ミロン

No.121
March
2010.3.20

ジュート（麻）は、バングラデシュの主要農産品。
カラムディ村にもジュート畑がひろがります。
（写真上）収穫したジュート山積みの車
（写真右）ジュートの皮を剥いでいます。
その中の繊維からバッグなどが作れらます。
手間暇かかっているんですね～　（写真提供　堀氏）

特定非営利活動法人　バングラデシュと手をつなぐ会
福岡市早良区西新５－４－２０
TEL＆FAX：０９２－８４４－１３６９
ホームページ：http://bangla.npgo.jp

※「ミロン」は一つになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。

『善意のボランティア』からの脱却を

「ボランティア」の本来の意味は「志願兵」。現代風に言い換えると、志を持つひと、といえるでしょう。自分自身の志を持って、活動する人を指します。わが国では、ボランティアの本来の意味が、矮小化されているように感じます。曰く「善意のボランティア」。善意で人の役に立つことは大切ですが、時には善意が、相手の存在や生活を危うくすることもあります。

医療のない村に、善意の募金を集めて病院を作る、その結果村人の、“自分の健康を自分で作る”意識が失われ、それまでの生活の中での工夫が失われたり、病気になったらただ病院に頼ってしまうとしたら、それは自立とはほど遠い、「依存」を生み出すことになってしまいます。悲しいことに、自立できない村人は、その後も依存して生活していくことになります。

わが国の患者は、自立しているといえるでしょうか？

また、カラムディ村に病院を作ったことは、村人の自立を促しているのでしょうか？　そういった疑問を持ちながら、それでも私たちは、一歩ずつ前に進んでいくべきだと思います。自分自身の志にしたがって・・・

２月の宿泊研修では、深い議論がなされました。これからの会の方向性をみんなで探っていきたいものです。４月にはバザー、五ヶ山コンサート、５月には総会が開かれます。楽しく活動に参加しながら、お互いの志を深めあっていきましょう。

（バングラデシュと手をつなぐ会　代表　二ノ坂　保喜）

<u>ミロン 121 号　目次</u>

あいさつ／目次	1
宿泊研修会報告	2～3
カラムディ村便り　・ションダニ・ションスタ　新スタッフ紹介 ・招聘事業のその後 ・奨学生からの手紙	4～5
イベント報告①バングラ料理教室	6
イベント報告②佐賀大学講演会	7
イベント報告③野芥公民館バングラ講座／総会のお知らせ	8
会計報告／これからの行事予定	9
チャリティーバザーのお知らせ／現地訪問参加者募集のお知らせ	裏表紙

宿泊研修会の報告

２月６日（土）・７日（日）さわやか憩いの家（春日市）において、宿泊研修会を行いましたので、ご報告いたします。

（小畑）

【研修目的】

① 手をつなぐ会の中期的ヴィジョンと次年度の取り組みを検討する。

② ションダニが目指しているものを共有化し、手をつなぐ会とションダニ双方の考え方や取り組みの違いについて検討する。

③ 会員相互の活発な意見交換と交流を行う。

【研修参加者】　計１５名（敬称略）

二ノ坂・平山・ラフマン・杉園・矢野孝・矢野あ・待鳥・田辺・内田・堀・千蔵・佐藤・山際（佐賀大学学生）・小野（佐賀大学学生）・小畑

【内容要約】

１．『手をつなぐ会の趣旨・現状報告』　二ノ坂代表

ニノ坂代表のバングラデシュとの関わりを中心に、手をつなぐ会の歴史を振り返り、報告。1989 年に初めてバングラデシュを訪問、ハンセン病・らい病患者の村を訪れ、必死で生きている彼らの輝きを見た。帰国後手をつなぐ会の活動に参加。ヴィレッジドクターと保健医療について 2 年間レポートのやり取り。1995 年母子保健センターの建設。医療は守られた役割を果たしていくだけではだめだと思い、地域医療とホスピスのあり方を考えていく。医師・ヴィレッジドクターの離反や不安定な政治情勢による苦悩の時期は、走り続けた活動を振り返るいい機会に。

昨年の現地訪問や招聘事業ではションダニの成長を実感。ヘルスコーディネーターのエクラムル氏のスライドを紹介。村人の古い思想・習慣も変わりつつある。現地の変化に対し、手をつなぐ会側がどういう将来構想を持っていくかが大切。

２．ディスカッション①

ションダニの成長、手をつなぐ会はどのように支援してきたかをふまえ、2団体間の関係性（つながり）のあり方を討議。またイベント活動が多く、会員にとって理念（何を目指すか）の見えにくい状態。定款第3条を読み直し、これから会は何を目指し、日本での活動をどのように考えていくかを議論。

３．『ションダニが目指しているもの』　ラフマン理事

ションダニの目標は二つの自立。

① 経済的自立、スタッフの生活の自立

現在活動資金の50％を「手をつなぐ会」の支援で運営している。一方、以前は経済支援要請の多かったションダニからの相談が、今では事業内容の相談が中心となった。精神的に自立をとげたと言える。

② 地域・国の自立
経済成長等からバングラデシュと日本の比較を行う。社会の成長・自立のためには教育の充実が求められる。都市部にしかない成績優秀校と地方の教育水準の低い学校の中間層の充実を目的にションダニスクールを開設。10年で成績優秀者の輩出など成果を挙げている。

4．特別講演『NGOとは何か?』　矢野あゆみ氏（元シャプラニール駐在員）

ＮＰＯ法人「シャプラニール＝市民による海外協力の会」と現地法人「Aparajeyo-Bangladesh」による、ストリートチルドレン支援のためのストリートスクールとドロップインセンターの紹介。自分の力で生きていて縛られることを嫌う一方、人に大切にされたいという思いを持ったストリートチルドレン。5年後の将来のための子ども銀行や、夜間に働いている子の生活時間を考え24時間開園を実施するなど、子どもの立場・思いを具体的に想像して、当たり前の感覚をもってプロジェクトを創造。女の子が少ない理由を調査し、家事使用人へのプロジェクトを開始するなど、見えない人の声・見えない問題を発掘していく。「貧しいから」「社会的地位が低いから」といった理由で思考を諦めない。プロジェクトでは少数の人しか救えなくても、ネットワークを使って声を上げていく、広げていくことが重要。

特別講演　矢野あゆみ氏

5．ディスカッション②

会員が活動に感じている問題点を話し合う。
「ションダニ」と「手をつなぐ会」の活動のギャップを感じるのは何故か？「手をつなぐ会」の活動ポリシー・理念は？「ションダニ」の活動の到達点はどこにあるのか？ションダニが地域のモデルになっていくには？そもそもボランティアとは何？手をつなぐ会の国内での活動の充実が必要、何をしていくか？…など。

会員それぞれに感じていた活動の疑問や、やりたいことを意見交換し、有意義な研修となった。

「手をつなぐ会」独自に、あるいは会から提起し、バングラデシュでこれから行っていきたいプロジェクトを検討。（フェアトレード商品の開発や看護学校の建設など）日本国内での活動についても、バングラデシュ人との交流の機会を設けたり、活動の場を広げる、ミロンやメーリングリストの充実などが提案された。

一方、会運営の効率化や分かりやすい活動目標など、「手をつなぐ会」の基盤となる議論すべき課題も残った。今後も意見交換を続けていきたい。

～カラムディ村便り～

（ラフマン・モクレスール）

ションダニ・ションスタ　新　スタッフ紹介

母子保健センターの医師の入れ替わりが激しく、地域住民もションダニも困っている。僻地であること、住居環境や交通の便が悪いことなどで医師や看護師はなかなか定着しない。

そんな状況の中で昨年11月末に1人大学を卒業したばかりの若い女医さんが母子保健センターに来てくれた。きっと地域の女性患者にいい影響があるだろう。そのほかに、村の女子中高生たちにもいい刺激を与え、ひょっとしたら医師を目指す子が出てくるかもしれない。経験はまだ浅いが、心で地域住民と接すれば、彼らの信頼を得、耳を傾けてもらえるようになり、病気の予防や生活習慣の改善など地域医療に貢献できることと信じている。

：アエシャ・カトゥン医師　（Dr.Ayesha Khatun、25歳）

招聘事業○○○　その　後

昨年9月28日から10月8日までの11日間、ションダニ・ションスタのスタッフ2名が来福。小中学校の訪問、高齢者施設や障害者作業所の訪問、訪問診療の同行などを経験した。

今回は、その2名の招聘事業後の様子をお伝えしよう。

▼ ションダニ・スクール校長 ハビブ氏の活動ぶり

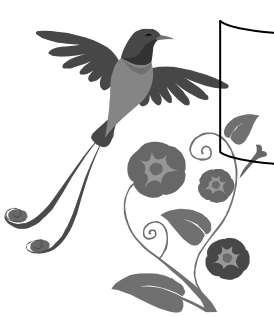
日本の学校で見てきたことを基にいくつかの対策をとった。それらは：

- 学校行事に保護者の参加を確立した。今年の文化祭のとき、保護者たちは自ら役割を分担し、生徒の通学路や正門、また校内の安全や清掃に努めていた。
- 教員や生徒は一体となって毎日、登下校時間に正門に立ち、挨拶を交わす。
- 頻繁に職員会議を開き、どんな小さなことでもみんなで相談し、横のつながりが強化できる対策をとっている。
- いままで同じ教員や生徒に同じ仕事をずっとさせていた。しかしそのことで実際に人が育たないことに気が付いた。今は毎回、役割を変え、仮に下手であってもそれを評価している。

▼ ヘルス・コーディネーター エクラムル氏からの文書

これまで手をつなぐ会や会員のみなさんのことをたくさん耳にしていた。実際に訪日してみなさんの活動ぶりを自分の目で確かめることができた。

日本での経験を基にションダニの自立、地域の自立を目指している。今までも仕事や時間に対して敏感だったが、訪日後その敏感さはもっと高くなった。今自分に対して自信を持ち、自己反省することができた。仲間と一緒に日本で学んだことを少しずつ実現している。時間はかかるが、地域の発展に日本での経験を必ず活かそうと思う。



はばたけ！奨学生

今回は、奨学金を受けて勉学に励む大学生と、
大学を卒業し現在は社会人としてがんばる若者の 2 名を紹介しよう。

ザヒード君　(Zahid、19 歳)

母子保健センターの前で、電話の店を経営していた元軍人の長男。私たちは現地訪問中、国際電話をこの店からかけていた。彼はダッカにある New Model University という大学で経済学を専攻しており、現在ションダニから奨学金を受けている。ザヒード君のことばを紹介する。

『失望した時に立ち止まってはいけない』ということばを新聞で読んだことがある。2009 年 4 月 2 日、父の突然の死で私は立ち止まってしまった。将来のことがとても不安だった。何をすればいいか分からない。何もかも一瞬のうちに消えていった。家には母と弟がいる。

大学を中退して働き、家族を養うことも考えたことがある。ちょうどその時ションダニから声が掛けられ、『止まってはいけないよ、自分の将来やお父さんの夢を実現するんだよ』と励まされ、失望から立ち上がり、大学を続けることを決心した。今ションダニから奨学金を受け、一生懸命に勉学に専念している。必ず父の夢を実現し、母と弟の面倒をみようと思う。

カウサー・アリー君（Kawsar Ali 、32 歳）

カラムディ中学校出身。中・高在学中にションダニから奨学金を受け、その後大学へ進学。しかし、実は当時家庭の経済状況が厳しく、大学への進学を断念せざるを得ないと思っていた。大学教育はエリート教育であるので、ションダニから奨学金支給がストップされた時期だった。夏、現地訪問中のある日の早朝、カウサー君は私の実家を訪ね、状況を説明してくれた。とりあえず私のポケットマネーから奨学金を出し始め、日本でスポンサーを探した。その時赤星美佐子さんが現れ、月々いくらかの奨学金を出してくれるようになった。おかげで彼は大学を卒業し、現在 BRAC 銀行に勤務している。カウサー君から手紙が来たので紹介する。

地域の貧しい家庭の子供たちの教育を夢に見たラフマンさんにまず感謝を表したい。彼を通して大木さん、のちに赤星さんと紹介され、結局、赤星さんが私の教育資金を出してくれることになった。この人たちのおかげで今の私がある。

私たちの地域の親の多くが教育を受けていない。だから子供の教育も真剣に考えない。家庭の経済状況もひとつ大きな障害となっている。私自身もそんな貧しい家庭に生まれた。しかし私の強い希望と努力、そして様々な人びとのご協力があって 2003 年に大学を卒業し、UCEP という NGO に就職した。その後、2005 年に BRAC 銀行に転職し、いま楽しく仕事をしている。

教育は個人、家族、地域社会そして国の平和をもたらすものであると信じている。ションダニが行っている活動が決して無駄ではなく、地域を変えてくれる大きな原動力になっていると思う。私には大きな力はないが、できる限り地域の教育発展に役立てたい。

イベント報告

バングラデシュ料理教室

（千蔵）

1月17日（日）、あいれふ（福岡市中央区）にて毎年恒例のバングラデシュ料理教室が行われました。小学生ぐらいのお子さんから、ご年配の方まで幅広い年代の方が参加され、男性も5、6人は参加されていました。ご友人や、職場の仲間同士で誘い合ってこられた方もいらっしゃいました。あいれふなどで、チラシを見てお越しになった方もいたようです。前のミロンの印刷の帰りに、見てくれる人がいるのか疑問に思いながらビラを置いてきましたので、努力が報われたと感じました（笑）

私のように、普段料理をしない方もいた（はず）ですが、皆さんの素晴らしいチームワークで予定よりも早く完成しました。初対面同士でも、以前から知り合いだったのかと思わず聞いてしまうくらい、和気あいあいと楽しそうに料理をされていた姿が印象的でした。

食事の時には、ニノ坂代表が、映像を使ってションダニや手をつなぐ会の様子を紹介され、皆さん、食い入るように見ていらっしゃいました。また、佐賀大学の学生さんによる、「アリ地獄のような街」上映講演会のPRも行われました。

私はこれで4回目なのですが、「日本のカレーと違う」「スパイスが効いていておいしい」など感想を言い合いながら食べる料理は、何回食べてもおいしいです。来年も同じ時期に行う予定ですので、その際はよろしくお願いいたします。

::参加者の声::

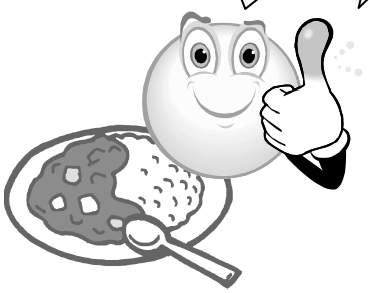
料理（カレー）が美味しくて楽しかった。
家でも作りたい。

カレーもピアジュもとても美味しく子供もよく食べました。
バングラの国や会の話も勉強になりました。
また、参加したいと思います。

普段関わることのないバングラの料理や皆さんの活動など知れてよい機会になりました。

バングラのことを楽しく学ぶことができました。バングラでの活動内容をもうすこし聞きたかった。

スパイスで味が決まるといって良いほど大切な素材なのに、スパイスの詳しい説明がないのが残念。



以上のような意見がありました。来年度の参考にさせていただきます。

イベント報告

佐賀大学講演会

（矢野）

1月23日に佐賀大学主催で、バングラデシュ※映画「アリ地獄のような街」の上映会とその上映会終了後の講演会が行われました。その講演会に講師としてバングラデシュと手をつなぐ会からラフマンと矢野がそしてNGO福岡ネットワークからも2名が参加しました。

当日は100人近くの参加があり、講演会の前半は矢野が映画に関連してバングラデシュのストリートチルドレンについて、後半はバングラデシュと手をつなぐ会の活動報告をラフマンが行いました。質疑応答の時間には興味深い質問であったり、こちらが「ドキッ」とさせられる質問があったり、中身の濃い参加者とのやりとりができたことに佐賀での国際協力活性化の可能性を感じました。なかなか国際協力に関わる機会の少ない佐賀、また福岡以外の場所において当会の活動をアピールできたことは有益であり、終わったあとも関心のある学生さんからの熱心な質問も印象的でした。

1/24 読売

途上国描いた映画上映

佐賀大生が企画「世界の問題考えて」

発展途上国の現状に関心を持ってもらおうと23日、佐賀大本庄キャンパスで映画の上映会と講演会が行われた。

同大の学生12人で作る学生映画上映実行委員会が「国際貢献に興味があっても、参加の機会が少ない佐賀で世界の問題を考えてほしい」と企画。同大国際貢献推進室や国際協力機構（JICA）九州と共催した。

昨年バングラデシュの非政府間機関（NGO）が制作した、貧困のために薬物売買や売春などの犯罪に巻き込まれていくストリートチルドレンたちを描いた映画「アリ地獄のような街」を上映。続いて、現地の教育や生活向上の支援を行っている福岡市のNPO法人「バングラデシュと手をつなぐ会」理事の矢野孝明さんとラフマン・モクレスールさんによる講演があった。

ラフマンさんは「バングラデシュの最下層の子どもたちに教育を施すことが、経済成長につながる」とし、同法人で学校を設立したり、ミルクなどを売って収入を得るために子牛を貸し出したりする支援をしていることなどを説明。矢野さんは「映画のような姿も一つの側面。現実に目を背け

バングラデシュの現状について説明する矢野さん

主催者である佐賀大学の実行委員のみなさんの温かさや佐賀大学のバングラデシュからの留学生の皆さんのパーティーに参加させていただいたりと日本にいながらにしてバングラデシュ漬けの一日を楽しく過ごすことができました。

←1/24 読売新聞記事

※記事末尾：現実に目を背けてはいけない」と訴えた

※

『アリ地獄のような街』はバングラデシュのストリートチルドレンの実態を描く物語です。いかに貧困層の人々がその負の連鎖から抜け出すことが難しいのか。そしていかにして子供たちが選択肢もなく犯罪に巻き込まれていってしまうのか。フィクションではありますが実際に貧困を生きた過去を持つキャストで忠実に表現しています。

→映画の詳しい内容は 「アリ地獄のような街」公式HPにてご確認下さい。

http://www.arijigoku.net/

イベント報告

野芥公民館バングラ講座

（二ノ坂）

～2009 年 11 月 27 日（金）、野芥公民館（福岡市早良区）で開かれた人権講座にて～

「あなたの国で誇りに思うことは何ですか？」

あなたはどう答えますか？　一昨年バングラを訪問した際に、現地の私立高校で、高校生との交流会に際して、私が尋ねた質問です。最初にかえってきた答えは※・・・(このページ下段に)

という感じで話を進めます。日本人には考えつかない答えもあります。

次に、「あなたの国の問題点は何ですか？」という質問に、「貧しい」「教育が普及していない」「医療が足りない」「政治の腐敗」などの返事が返ってきます。そこで「どうやってその問題点を解決しようと思いますか？」と尋ねるとさまざまな答えが返ってきました。(皆さんは、自分の立場で考えてみませんか？)

こんな感じで、バングラでの体験を話していくと、昨年 11 月 27 日(金)夜の公民館に集まった方たちが、熱心に体を乗り出して、耳を傾けてくれました。男女共同参画委員会と人権尊重委員会共催で開かれた人権講座で、二ノ坂が話をする機会をいただきました。

野芥地区は､にのさかクリニックの地元で協力者も多いのですが､それでも｢バングラはどこにある？｣「人口はどれくらい？」という質問に答えられない方もたくさんいます。

講座では、バングラデシュという国の概要に続いて、現地ＮＧＯショダンニ・ションスタの理念と活動を現地スタッフが作ったスライドの日本語訳を使って紹介しました。また、バングラデシュと手をつなぐ会の 20 年にわたる活動も、教育と医療、国内での活動などについて話しました。本当に皆さん熱心に聞いてくれました。

「地球規模で考え、地域で活動する」ということが、本当に大切なのですね。

告知

2010年度総会

（特活）バングラデシュと手をつなぐ会の 2010 年度総会を開催します。
議決権を持つ正会員の方はもちろん、非会員の方のご出席も歓迎いたします。
当日は、議案検討のほか講演会も予定しています。手をつなぐ会の活動に深く触れる機会です。皆さま、ぜひご参加ください。

日時：5 月 9 日（日）14：00～16：30
会場：にのさかクリニック 2 階ホール（福岡市早良区野芥 4 丁目 19-34）

※「自分たちの言葉で話せること」がバングラの高校生の誇りです。その意味は？
・・・バングラの歴史を一緒に勉強してみませんか？

会計報告

(敬称略、3 月 8 日現在)

●新会員紹介

・内田和伸　・柴田久美子　・嶌田八千代　・山下晃央　・林チヨ

●募金者

・福島啓子　・吉川八重子　・大賀久美子　・松隈則子　・石川昌子　・越智吉郎　・古川由美子
・井手喜怒子　・古木廣子　・安部義子　・藤田瞳　・江頭マリ菜　・今給黎靖子　・松田純子
・家永道子　・濱田絹子　・茂呂保育園　・西南中学校　・二の坂クリニック募金箱

●旅費のカンパ

・西田和子　・オーストラリアン・ビーンズ・カフエ

いつも皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。　<会計：杉園>

お願い事いろいろ…

☆ 集めています ☆

・未使用の切手やハガキ、書き損じハガキ、商品券などを集めています。

・バザーに出す品を集めています。ご家庭に眠っている食器や服などご提供お願いします。

☆ ボランティア募集 ☆

・バザーの、事前に値札をつける作業や、当日の商品陳列や接客（お客様とのおしゃべり？！）をお手伝いいただける方を募集しています。

⇒⇒⇒ご協力いただける方は西新事務所までご連絡ください

電話　092-844-1369（留守電＆FAX 対応）／メール　bwz12729@nifty.com

これからの行事予定

日にち	内容	場所
3 月 25 日（木）19:00～	定例理事会	西新事務所
4 月 8 日（木）19:00～	定例理事会	西新事務所
4 月 11 日（日）	春のチャリティバザー 12:30～　オカリナ演奏 13:15～15:00　バザー	にのさかクリニック駐車場 （福岡市早良区野芥 4 丁目 19-34）
4 月 22 日（木）19:00～	定例理事会	西新事務所
4 月 29 日（木・祝） 14:00～16:00	五ケ山オカリナコンサート 出演：shana、ひまわり FOUR 他	五ケ山豆腐店　芝生広場 （佐賀県神埼郡吉野ヶ里町松隈 2219-1）
5 月 6 日（木）19:00～	定例理事会	西新事務所
5 月 9 日（日）14:00～16:30	2010 年度総会	にのさかクリニック 2 階ホール
5 月 20 日（木）19:00～	定例理事会	西新事務所
5 月 29 日（土）17:00～19:00	現地訪問事前研修	あすみん　フリースペース
6 月～8 月の間に数回	現地訪問事前研修	未定
8 月 15 日（日）～26 日（木）	夏の現地訪問	バングラデシュ・カラムディ村

春の催し チャリティバザー

春の心地よい一日、オカリナの音色に癒されながら、お買い物を楽しみませんか。
食器、洋服、日用雑貨、野菜、花、手作りのお惣菜、スイーツなど　内容盛りだくさんです！

【日時】 ４月 11 日（日）

12：30～　オカリナコンサート　演奏／オカリナグループ「ひまわり」
13：15～15：00　バザー

【場所】 にのさかクリニック駐車場

（福岡市早良区野芥４丁目 19-34　☎092-872-1136）

♪ バザー提供品募集！ボランティア募集！
ご協力いただける方は、西新事務所またはにのさかクリニックまでご連絡ください。

♪ バザーでの収益金は、バングラデシュの医療と教育のために使わせていただきます。

バングラデシュ現地訪問 参加募集

バングラデシュ西部にある小さな農村・カラムディ村を、共に訪れてみませんか。
現地ＮＧＯ「ションダニ・ションスタ」の活動視察、地域住民との交流などを行います。

【日　　程】８月 15 日（日）～26 日（木）

【参 加 費】19 万円（予定）　※航空運賃・現地滞在費含む ※ビザ代・保険料は別途
【申 込 み】申込み締切は６月末。
まずは、西新事務所またはにのさかクリニックまでご連絡ください。

【事前研修】現地訪問へ向けて数回事前研修を行います。
第１回目研修　５月 29 日（土）17:00～19:00「あすみん」フリースペース
内容は、訪問概要、バングラデシュ紹介、当会の活動紹介などです。
参加を検討している方は是非お気軽にご参加ください。
※あすみん（福岡市中央区大名 2-6-46 福岡市立青年センター5F）

バングラデシュと手をつなぐ会　西新事務所 ☎092-844-1369（留守電・FAX 対応）
にのさかクリニック ☎092-872-1136